

8 9 10 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03979 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

291
53
1

中根文庫
蔵書





書中見出アラニ山ノ縦ナリ

書平尾山アハニ山ノ漫
碑讀五味佳後 入界 桂樹林
中古主に階高向高下小山武山河の系溝高の毫
支文書仔細に親く承聞發聲し事未れ而故を
以て國家奉公、起伊達風土元有紀古士傳等
日野照芳門軍細略教示事御不至、是を早御
説、此度一もとを及ばず。而頃方略出でて、此
處で左近の勝利す。高川原家、小山家、赤坂家
貢もうちなく判明。之得東北事、唐主と拜相やぐ
偶聲。之處聲、初歌山在地高よりおう焉。信行言在高
丸山家。の北南遊轍。其走危山。去道也。而
古の事、其走危山。走危山。其走危山。其走危山。
先走危山。走危山。其走危山。其走危山。其走危山。
其走危山。走危山。其走危山。其走危山。其走危山。
其走危山。走危山。其走危山。其走危山。其走危山。

便はかき

右庄町

中根七郎様

九月廿四日
小野芳彦



紀南遊臺

夏秋年

戊午、秋先、獨尊不爾者有之紀南、秦地浦ト云爰、縣息
シ捕アルヲ觀ニ往ク事ア紀セリ時紫葛、之漢華、市中騒
動ナルニ驚キ遊テ殊ニ豪遊ナルヘシト心、喜ヒ譲稿ト云
臺、天滿屋市兵衛ナル有、居、同伴、有聚、臘月念一日
一宵、兵庫、港近、渡海、形ニ乘テ夜半、兵庫、達ニ着
不ソレヨリ御外鶴喰ト云家、船五百石積德義丸ト云舟
乗移、秦地浦、帰、名ヲ查助前右足トニリ兩人子同舟、
ニ少レ、荷物ヲ積ミ迄ミ廿二日、輪浪、之經日船、中、
日ノ暮ニ從行舟向屋忠兵衛ナル者、終日讀書ヲ接、兵庫
、上ソ清潔、旧址十ト巡、又船入リ、宿ミ十三日天晴

立井村信義

（此件是立井村信義所寄出的明信片，收件人是中根七郎）

日出・月浦

月子洞ナレラ辰、利遇ノ頃、碇ヲ揚テ帆ヲ掛ケ乗出ス左、
三見エルハ兵庫、築島舞子、涼明石、津原船、浦吉砂、
港相模ノ證給外由良、港次第、船、紀賀、越、故遠目、
ナリ左ニ見エルハ博浦大太宰和田貝塚泉外、博盡ノ紀外
一丈是湯淺、港和歌、浦和歌山、博縫ノ奈屋、内港日比
一浦、證其間ハ蓬才島是ノ紀外第一、島ニニ林木少斤不
入牧馬ヲ放ニ良馬々喜レ、紀云郊拍、地也ト前リ日比、
岬、大悲閣アツ遠目、也ナニ見エル天ヨリ高津大河、海
之朝ノマ雾ナリ、村妻、清姫故トナリニ證レタ古結道成寺
ミ今ニ存セ、相赴多シト同リ故ニ藍谷浦上野小原开口野
印南、港是ニ大河、苦々瀧也切目岩城南部村妻ニ巣樹、
管詰ニシニ四方、古不地ナリ芳夷、浦田邊、城海上、

南部、藤村
湯浦

捕搏一、近ニ見エル委細、丁、窺難工安藤武、居城共力
衆六人ト安藤家守聚居スル内界、十二町ト同、安藤三万
五千石共、力知行萬古千石、而リト云ト拂下、既ツ、キ、
港アリ相續ニ村落多シ、一名ハ詳、セ不綱不粘ト云諸浦
テト白良ノ浦相被名所、湯崎ト云所、湯所泉アリ、當田
一使ト云浦、岸曲工ヘ附處ニ瀧ナリ、市江、岬ト云處ヲ過
ク是近古一方ニ、諸浦、浦々ナリ、浪人、家ト貢シ、
見、爾才、拂下、田邊ヨリニ丈キニ見エリ、足ヨリ一段退
ニ達カ、阿波國、山々ニ見ル計、迄リ近西、沖ニ生住外、連
山互旋レテ蒙然タリ、余ハ益烈シシナリ、誠ニ喜帆、順風、
一日置、浦周參見、港口輪洋三赤洋江澄里澤、濱若指、

輪宗田子岬江田、溝田塗、浦有田歸、浦ノ過の時行人曰
順風ナレ左岸ナリ。聞葉ナ故村先ノ湖、岬ヲ越ルニハ少許
ナリ。品ニヨリテ湖、港、船ヲ入ヘシト也。時申半刻、
ナリニテ朝ヨリ六十里餘ヲ走リタソ湖、岬ニ至ル。須角ナ
シ軟ニナリ。輕ナシ湖、岬ト云ハ。銀川神方、卯ニ盡ル。寡ニ
押シ向ク。湖、岬ト云ハ。銀川神方、卯ニ盡ル。寡ニ東西
ノ瀬舟合スル大灘ナリ。日モ暮タレ。紙ヲ折ニ。象限儀シウ
ツシ北極ヲ測量。石レ三十三サレ。壁ト見工在。入テ清、
島ト云島ナリ。島ヨリ外ヲ通シ。此大島、ハ十年以前御國
一泊二艘カ、リニ在。大砲ヲ畫。山ヨリ布。袋ニ。船中
一水ヲ取大島、本ノ薪。トリテ積シ。出エリシ處也。

道江。櫻郎。

大島。櫻郎。

州是國舟ノ幸江アヨリ。附説ニ。銀田、居タリシ時。同友
ヒシトナリシガ今度見筆謹。也。タソ伊達李俊カ語。云
ハ。大島ノ神、十三艘ニ帆ヲ掛シ。異國舟來。李俊カ怪ス
ハ。高兰村、モ見エニヨリ何レ。謹、カ船ヲヨハケト
見居タル。大島、向、神、贊助ヲ留テ。銅ニ造リタル
傳馬船、二三人乗形。大島、内海、重リテ。降タリ。下ニ
繩タシテ深ナソ。舟リ。頓ニ大島、内海、舟ヲ入レカ。リ
タソユヘ。是武裝駕。外、文字ヲ知。ソレ舟十キニ。急
ニ。奉後ヲ舟ニ迎。事ハ。差シカ。リタケテ。エヘ奉後モ
取テ。三年後ノ歲シ。舟ニ乗。五里許。家ヲ往ラ鬼タ
ル。マツ船。送リメガラシ。船ニ。舟二艘ナ。カ。一艘。ニヨ
シニハ。長一丈ハ。カリ。丈丈。又甲冑ヲ帶シ。長鎧ヲ横タ

「其處ソ半分後カタツル形ニ造、物金銀朱粉日ニ映シ
ニサモ勇社ナリ形勢ナリ一般ハ長八尺計、差歸人ナ須
ニハ朱翠ナ飾、辯髮ナ長、垂レテ湖ニ及ブ計、縫羅
ヲ曳キ鈎竿ヲ持ニ幹念ミナシ卓リ鈎セ索、ソシリモ、
トト何レニ莫、過リタル精妙、細工ナシ油脩形牛、乘
タク人、長六五尺、ア集、先父、ア高、眼中未、年三
氏、恰好スルニ長キ角、思ヘリ是民莫シ鈎ノ柄ニテ見
物、従タク着ツ集中、船ナ入酒、意セ張ツ食セ紙ヲ共
ヘナドレモ與、シ居タク所、李俊ニ祐テ船、移シシトセ
シニ本後ヲ見ニ舟中ヨリ三人船、皆テ中、如キ物ヲア
リシ舟、乗レタラ娘、船ナルエヘ船、居ル内、内形メ
里民一人舟ヨリ下リタク、梯、中段マテ上リ船、牛ナ何

ヒ見シトセシ、船牛ヨリ斬太立リ出テ右、右、袖
シ喰カタリ肉身、ハ牙半弓ノドイヘモ恐ロニキ努、拂
レテ早ク、梯ン下レリ李俊カ筆語ヲ贈リタクハ本船、
匪墨利加船也入港ロ而候東島町ト書ナテ出ニ、貢餘、丁
ツ書シ贈シ、拂キシテ請取ラズ速、退ナガレトテ又中
フ振ケニ、少レ退キ一時計、陽テ見物レタケニ折節、
鷺多シ群飛ケレハ、舟中、人船、二千艘、並タク鳥競、
一挺キキニテ振廻シ頃、天降ニ見前ニ見石火繩三九、
不中ニテドン發シタルニ三度、二度、鳥、飛行スル、
中リテ言ヨ、海上、隆ルフ前、斬太海上ヲ承テ二キ喰
返リ舟頭、鐵ル有様何レヨ奇怪ナルモノ由之ヨリ能外
代有、命ニテ直告筆終、ヨリタクニ、李俊、退キ帰

リタの某船、第後ニヨ前、通リヲ云ニ寄サズ算半ノハ
多ク銭二度ニ銭ソ銀ヲ寄シケリト也和歌山ニテ五十里
餘シ許、ナ一日、向、水ノ原大島、アカリ材木ツ伐
ニ薪トシ積之、餘リ、猿臂ナクニ、須恵村、沿右工門
ト六百株小舟、乘行ニ木ツ舟ルヲシ制シ互ニ言語、通
セテ向止ナルニヘ頻、制レシレシ被鳥銭ヲ皆右工門、
禁シカケ三許ツ玉リニタニ幸、中ラサリニカ恐レ早
早、逃帰、ナレ、其後、高猿臂基ニカレト也御事、
ロモ我祖シテ経公、訴、ス今、人モ堅倍リテ派布ス、ト
リ其役ヨリ毎夜大砲ヲ發ス其晝十星、山海、及、フト云
リ多シ發レシケン晝夜、三十ハモ響タリト云、大島ニ留
リタルイナ一日、シテ在中西風、烈キテ帆ヲ張テ何

ケトミナシ津、出芝、又其後二日ニシテ紀公、警官陸
路、カリヨリ押東リシカ然、祭ニテ聞トレシ祭給ナケ
レハ空ニ刀束、又其後紀本丸十九浦、七十五、零梓丈
台ア設ケテ異國船、法連ヲ連ヒテ手當出未タクト奉
俊語レリ仕事ヲ余カヒニテ海リ見ルニ、東島ヲ待トニシ
“諒”ニテ西島ニ舟ヲ告レ立レシ全ノ薪水、用ヒテ舟
ヲ荷タリト見エ森木シ養アリ、所易利加、初方ナク、
シ大砲、一方、十三門ツ、並、仕カケタルト内シ小鏡
一室、其枝ヲ見サレ、是モ晴レ不吉人、心ニテ御伊
御、御軍、國ニル、ビ大砲、アホ拂ツテ引吉ヲ易セシ
クト思、ルナヘシ竹崎ニ移移山、軍備如何ナリレカ
御タキトセ陸軍計、ナ出レ五、ケル紫日ナリた海門ヲ

肇備シテ表舶、退キア待ト云大ニ御事、割烹ト以シ
晏シ席御ツホレテ候付セスンハ塵ニヤントナリハ大島
ノ左右、海上ヨリ水軍ナ迎レ陸ヨリモ一キヲ皆レ權攻
ニセマシハ速ニ退キハ必然也州版ニヘ移ニ面白ヤ而論
アレキ關土所勢ソ見タバ上ニアラリレハ縦ノ縫シ縫ノ
近頃、南洋ヲ度ニ表舶、帆影ナ見ル由日暮、舟、南洋
砂、廿里トモ古ルヘナセ南、沖七八十里、雲、物十里
寺リ東、流ル、早沙アリテ吉邦ノ舟如何ナ、船頭ニ比
沙、入レハ深サレテ底流ス今ハテ彌泊、舟皆此沙ニ流
ル、ニ、出ルニナシ十五六呂計、士レハ耶翁山、
頭ヲ見失ヘテ本国、地方一向是、才、一、由也三十里
三浦、行、四五千里、内、毎度夷形ヲ見タル、レ

ト數人船、ト青年七月十六日ニモ表舶ニ般乘地、沖、
奉リテ清晉ニ時計リ吾邦、山水ヲ詠シ歎ニテ遠至鏡ノ
以テ四方ヲ伺、ト難舟、者共テ振キ錘ノ尾ア笑ヒシカ
舟ニ幹ニ國ニ寫シテ吉レリト加子、者禮レ、是茅、一
向ニ訴、石ニ事諱タリ運、沖、チク、ト怪シキ帆影、
通、ト立ニ見失フ、ト折シナリト跡人多シ倍リ大經
ト大海、何方ニアモ合乗タル船ヨリ一方十二星ナト四
方廿四星ノ見渡石其窓ハ大方縦面傳クナリテ見渡サレ
不體、波濤モ晃、テ霞レ、ト、更ニ元ナレキ大キナツ珠
シニ書在博、能詩タリ、一大縉蓋也三四千里一向フニ山
ヲ見ハ、骨立蘇、濤、隱レニ半ヨリ上ヲ見ル、ナリ近

頭物理学ノ明ラノタレハ見ル。1 陈理ニ合レテ疑フ。

ナレ夷船ヲ向義繪多レ華元ニ歛アリ

シ姫傳記留
片川
見エルナリ姫一消息、豊王韓、出征、時役國ヨリ歛シテ

レ女子絶言ヘ入テ孕ム。トアレニ泣願、姫ニテ此也ニ竄
セラレ生レテ首ヤス故ニ姫、浦ト喝アト縛人、縛ナレ
余未信之國史、内ニ紀伊、媛浦ト云如詳ナク不謬、川古
彦浦、滑川也。鰐ヲ捕ニ浦ニテ天溝至長左卫門ト云菅長
耳衆ヲ擁スリ由ア向ケリ吉歲牛月アテ、我浦ニテ鰐十九
頭ア獲タリト。次ニ桂井浦下田草、浦浦禪、湯與深十丈溝
ニテ南船風浪ア避ケレ。震ナ、夜行船十石不漏遣、時詳
万リア獲タリ夫モリ初歌、船賄ナツ珠御船レ小島一。

夜行十六里カ

石生嶺崎ト云ヲ經テ舟自高芝下里毛ヲ過テ奉地浦、向テ
於明浦、舟ソ着、夜、入テ十六里蓬臺ヨリ窓、星宿
一度數、二度舟計、ト恩ハル在中、星宿、着レハ不都合
ナル由ニヨリテ皆船上、堅脚マニ觸被ニニカリタレハ構
一辺、憑リテ西、方ノ脚空不レ、先第一、那肴山壓ニ端
章了加、見玉聲蓋平楚信外北地、山色、達、於於樅櫟
生レテ岬梁タリ、海上、一奇觀ナシ、蓋地、入ロ、近層、
乱、平中持御些數日潜通シタルト云礁石、上、松十餘株
アヘ小島ア、太刀墜ト云一町ハカリ入江ア、其向、今櫻
佐島、名年、嶋、維盡投海、死タリト詐リ隠レ聲タリ
古跡ト云太刀川此言、墜レタルカ後ニ百年、渾人網、不
タルト也。沙、錯、用立ク不浦上、社、納置ト語レリ斯々

伊豆、勝浦
山岸島大刀落
別

天山先生西洋
絵術ヲ研究シ 繁洋にて演ノ吹ケリ 其時金・銅丁リニ鍍金ヲ制スレバ至
天地禱懃

角立門ハ太閤

ノ是ノ見物レニ器也 上リタケハ已前ハカリセ奉也 命
長本姓、相田也 有地器也 甫字ニシテ角左エ門ト云熊野
内新宮鏡十八才ホシ丈五尺メ掌、此鏡、鷲頭、經管鏡
世門ハ入江、向ニ小諸屋、邸、故、長屋、皆、臂鏡、
筋、仕合、納屋也門外、古近、入ル玄同キ、書院、至
玄同、林ニ古キ具、櫛小鏡ヲ四枚正、懸、櫛、明鏡、舟
造、タコ十文字、長柄ヲ五本懸タリ坐敷上、向一通、
又ヨリ横折リテ記云捕魚壁當、腰帶入、別段ヲ後タリ普

清ノ格別愈入タルニミテ、茶酒及饗膳終ニ頃、船ヲ船二艘
ニ引來リテ、門前左、方、入江、中ニ奥ツ、水牛、浅キ
處ニ置ニ及指モル、背トハ鰐ヲ刺殺シ、又肩長六尺許、柄、
先、出メ鹿丁ナマケ、腰、研石、片、藍縛ニ着ニ初ア垂レ、一
行三十人計リ並ヒタク様兵刃、一隊ニ見ケヤウナリ、兵、
脊、数人上リテ次第ニ肩リ出テ、眞骨皮ア吉、赤肉ノ層ノ數
ラヤハ江水四疊四方、血、神アナリ、双指ニ薙縛、血、
糸テ、厭ナ、傷、有病イカニテ、血射シテ、勝ノ手、シタニ勢ト
云、シ村端ハ鬼モ、其縛ニシテ、萬ノ竊シテ、蒙子ヲ抱キタ
ルウ如クニ、懷ニテ逃去シ、双指ニ肉、餘ラシ、下、猶、薄
シテヒツカニ、言妻子、其ツノ体、日東ヨリ、仕シセト見エ

胸中空氣
志抄

タリ備半用所、前ニ肉ソ積シ頭脊骨髄熟暖シレバ、積昂
在ニ中買一石聚リテ入れニテ賣殿シナシ他日、繩、肉價
五十金、ナシタル由ナシ筋、別ニ取リシ乾カシ唐弓筋、
商事、索ル是百六十五六金ノ價アハ由也竹屑所シ見地ニ
鉢シ邊ニ小屋ニ入クテ見レバ三間梁、十二間八至、内
鉢、形等、造字ニテモ、セ

↑ 柄

皆此、始メシナシ輕十鉢ヲウツ又、重ナセ十五文
柄、径一寸ハカリサヘト八角ニレテ鉢四本ニテ打附オハ
縁、小細引サ六間程附ケ置重十鉢、百セナ十束也、ナ
ラカシ木シ綱、小屋ニ入りテ見レバ綱、一本十申指、往ナ
ル縁、二筋目、同三尺、石ノ故目、長ナ六尺ナシ幅十二

間ニシテ張力四キ尋、石ナハ得ニテ輕ツヤ無カヘリタリ
左一般、綱ソカツリテ總身、カツヒ様ニ万ナリ洋ケ、四
斗福ヲ數々附ケ糸綱六七十段モ支度レテアリ入舟金、三
千兩、及コト告、舟ニ不斷送リ共、熊野、船身ハ至テ手
堅、造リタル者、トホ、ハ外板、トハギタル少和也、一般
、舟子十二人、又精二人鉢二十本、載セ食料モ只経日、
用意、ミナリ船舟ニ十六艘ト、言書上ナレ、古ル舟モニ卅
艘、ナリ、綱舟モ十二艘アリ也、若林、其物モ経リテ些數
、帰、角右工門坂、深く處人ト、幹レル説話、夜半テ同
ク廿上日六日雨、遠見、寄所ヨリ見物石ノ、難、折、通
レ石沖ニ三星、リ向ハ逆テ手、入ラズトテ取ラズ碑近、
鉢、通ニテ鉢ノ船四五艘、テ附回レ待キ事、追之ミタル

時、御ノニ重ニ復リ追縣ノ御ニカ、リタケ露ヲ鋒ヲ追ハ
ニ、家九百本ヨリニ百本を差ニ無少シ弱リタケノ劍、長ニ
二尺計、一間柄ノスゲタルニテ百餘度モ差ニ大キニ弱
リ出、噫氣ハカリニナリタル時ニ般、向ニ丸木木ヲ波、
其上、轍ノ頭ヲ截セ繩ニテカラゲテ薄透、而薄テ吹ニ清
氣ヲスル死海タルヨリ輕シニ便利ト云、二十六日、一頭
來タル、見タリ毎日朝ハ曉ヨリ草食ニテ午前十七八被綱
舟八九艘、一星ハカリ沖、出張ノ人數三百十、其餘、遙見
者、所ニ見ゆ、向テ加勢ニナリ先ニ軍事飼馴馬上ナル事
ナレ、兵士兵、共體思、上ニ勝病ニテ業ニカ、リテ赤薙ニフ
臭ナシ、不甚多、一頭ニテモ三四百金、價、大隻多、通不
通ナリ、未段ニサシ黒松ラサニニ十七日時又二、古歎、
事

名所珠浦ト云霧、並ノ素地ヨリ一里餘アリ半途、高芝村
ト云霧、行達至後ト云、ソ医生ナニ文字アリ者、テ所ヒ
近ヘ山ニ一宿、二十八日、曉素地、帰リ大鹽日、三山
ノ巡拜、心得ニテ東装ニ升坐、那音山、會、途中晴
路多ニ戴ケ、暖アラク那音山、等處、前述二里、村落聚
落アリ鳥居、内八所終道ニテ龍エル滝、下、八所廻
也津、奇作、見事ナリトセ十二社權現、景行天皇十二
年、新宮ノ、移シ祀玉、シ由國常三草ヨリ、鷦茅草不
合尊ニテ天神七代、地祇五代、各別殿ニ祀、古觀ニ社
聚ナリ、拜殿ニ大キニ、香爐ニ四時火、消サル由社人社僧
多々有、舍皆不垣、上ニ瓦屋、造、數多、見ニ大悲閣、別
一構、堂ニ大キナ、堂ナリ十方院ト云廟坊ニ仰、拜殿

「夜郎と連れて通夜と珍らしく露へて越年を終り詩翁多
ケレと寝て載て元日へ布斎にて念入タル馳走に出立
夜半不寐工、身を休ミ已刻過て又社前、清正御事ニ遇
午刻、神祇ノ拝シ神供ヲ解スル年々、恒例トシ由乃祭拜
シワレヨリ大輪株樹ト云五十町脇五里、屹岨リ本宮、六
輪山、三里、向へ天然、石、二段道ヲ造リ少シ加十
九輪、裏石シテ深山、山、小径ヲ二百五十町、向石、上
にカリ歩ムヤニシタリ元禄三年三月、宝永二年正月、
往リタル由行人所焉ト云山、名乞石、雲、天穗ヒ、青
木ハカリ山、下付、四尺計、簾幕一面、簾柱シテ朱柱シ
タリ木ノトドケ、五里ヲ下、本別丁、跡ニ小口木ト
云家、宿

本宮

本宮、宿

本宮、宿

山下草、四尺計、簾幕一面、簾柱

トアリ、簾白、三トナビ

取下候宇

本宮、宿

本宮、宿

湯峯里ノ湯標

本宮傳記

「昇興普清始、内也無音川ト言名家、大ナル橋アリ鳥
居、正面ナリ小牛原正、同ナルニ紫御天皇、詩亭船、
テ御地ニ新宮ヨリ移シ祀リ五、社壇、送言、垂仁天
皇、慶祐シタル由大峯川、上、本宮、地、送リシテ御地
ナ、三日二、二十五所傍ナリ湯、棟上云新、温泉、浴
熱湯、水ヲ半分加ヘテ入り大湯蓋三ヶ家アリ東端アリ
湯、小栗御室カ善、申リタリ癡病ヲ浴シテ快復トシ、湯
ナリ湯、湯ヒキ別セ研湯、餘、難過、無病、人、入湯、
「惡ニ由ケテ一兩度浴ニ試ム、膏モヒリクト疾ム他也
五日朝出張留シ、厚浴レ五日朝清川ト云村ヨリ大峯川、

大峯川市蘇郎

夜眠ノ連ヒテ過夜ノ移ラシ十霜ニテ越年シキ、詩翁多
ケレ矣。載セリ元日ニハ宿舎ニ念メタリ馳走ヲ出シ
旅牛不寐ニ、身ニ休ミ已刻過ヒ又社前、精ニ祠事ニ過ヒ
午刻、神籠ヲ拂シ神保ヲ拂スル年ニ、恒例ナシ由乃祭拜
シワレコリ大蜘蛛捕ト云五十町路五里、岐嶽ノ本宮、六
、瑞ケコリ三里、向ハ天然、石ヘ之終道ヲ造リ少シ坦チ
ル霧ヘ巣石シテ深山、山ノ小径ヲ二百五十町ノ間石、上
トカリ歩ムヤウニシタク元禄三年シ、吉永二年近ニ共、
絶リタツ由行人所焉ト云山ハ冬矣、石、木、松、青
木ハカリ山、下件、四尺計、簾幕一面、蓑笠レテ柴杖シ
タリ木ノ見ルコトナレ五里ヲ午、時刻ヨリ、跡ニ小口井ト
云處、宿シ二日、大蜘蛛取ト云峰三里半ヲ端テ本宮ニ着

本宮
古文

放下候
脱シタル

資料
番号

本宮ニ四月十四五日アリ、中津正ト云社家、古ニ荷ニ牛言
・十二社ノ拜ノ明和庚寅、年回禄ニテ御殿屋ナリ今年ヲ
・耳興、普請始メ、内也無音川ト云名號、大ナル橋アリ鳥
居、正面ナリ小中津正、同ヘルニ崇禪天皇、詩宇松、
テ御地ニ新宮ヨリ移シ祀リ五、社壇、送言、垂仁天
皇ニ御替シタル由大津川、上、摩芋、地ニ送リシテ御地
ナリ、三日ニハ二十五所傍ナリ湯、棟ト云所、温泉、浴
熱湯、水ヲ半分加ヘテ入ル大湯蓋三ヶ處アリ東端アリ
湯、小栗利宣カ善ニ申リキノ廢病ヲ浴シテ快復トシ、湯
ナリ湯、湯ヒモ別セ研湯、餘り後過ニ無病一人、入湯、
“惡キ由ナレヒ一兩度浴シ拭ル、賣モヒリ、ト疾ム但也
五月朔古張留シテ、屢浴シ五月朔清川ト云村ヨリ大津川、

大津川市區

栗傳院

勝峯里ノ邊標

新宮にて九室の門下、形、兼ひ丹阿大河アレニ室ヲ清流
二十尋餘、深十尋ニテ玉砂礫近鮮明ニ見エバ徑十、而
本ハ奇石怪石峰立セリ中、牛尾、鷺ナルヲ寄經、一ナリ
舟、古渡送リニテ湖、百丈、ニ牽シナリ船之、漁具ナル
蒙多シ慶長多ク舟ニ斯ル人ヲ薄ラニ由大前司、内一人姓
名ヲ忘タリ其子孫耶、茅屋、ニ川迫、住不外方、河太郎
未ニ丸キ石ツ一ノ空庭中、持置、一疋也ト、夜半、一
ツ失ハシ生レ、一ツ摺ス竹者、庭石ニテ慶長、數枚ナト
云、一悔後也中流、左右、相對シタリ石ニ高サ一界程、大
石自然、男根上女根下、象ナリ此以前余屢詩ヲ作リテ唐
音、テ吟シタルニ同前、是合タリ者其事ヲ譯ヤンツ先
テ意感シタル時、子母石、一ツ、詩ニモ作ラレテシト云

悔後
意感
子母石

余鳥キアリ舞中、入テ見ニ、レト云比吉、方、山中
ヨリ薪、潔布、一二三、端ト云、年、一二三カ下ヨリ、
一二三カ古木知レサル由、櫛人、告ニタル向昂株律、則
ニ瀆、争、仲、怪石、雄、雌、云向ヲ得テ辟床ニ曉シ同カセ
タレ、殊外、其中、興ナリ之程、新宮、署、川口、古
ニ上レ、河東、中、小屋掛テ竹木ヲ船ニ積、渡湯廣、十
セ呪剣、小屋掛シニ一段高キ所ニ、斯ニ皆見通シナリ漏
水、時、了拂アテ上、本家、逃レト也新宮城、少レ所
被捲三重二重傍然トテ石垣頽々タリ外一層、水塹ニテ
内、力、轡、二、部ヨリ内、少シ山、櫻子、篠、張タリ拂ア
リ、開、水門、一ヶ所、新宮本カ、二十六騎、知行、古
大身、六百石ヨリ、小身、三百石、層、ト云、一、屋敷、大

新宮
川原家

キニニ泉在門洞廻白砂ニ青葉ナリ前時馬ヲ持タシ人三人
 アル内木野君家申ニ入文、餘程乃レ借旅宿ヲ取リ御度
 了落テナレ新宮、詣テ新宮、土地至ラ靈地ニ大社ナリ
 神門ヨリ一時入りニ神樂堂其内、廻廊アリ行幸ノ時、
 御輦寄下ト宸殿モ設テアリ拜殿ニ是大ナリ是モ脅煙、上
 断、スナニ言壯聲ニ白砂、廣キトナ、岩、不祥自良、
 滉ヨリ貴シタル石也十二言、列坐レ多キトナ加テ屏人、
 岩ニ為ニ敷ニ絲ヲ西方ヨリ鎮坐シテ既メ仁肇母子、社結
 霊宮ト号ス一列ニ作精靈守速靈宮ト号ス次ニ國常立尊證
 退ギ祝言共テ社言、奈下命ヲ祀リ左左、仰々、祝言、靈々
 祀リタル由ニ存合殿宮ナリ大社ニ卑シ附ニ僅ニ三茅ニ

前、梅ヲツリニ近所レ不次、四社ト一列ニ是忍能百草ア
 花リ禪地宮ト云墳ニ於ケラレリ聖之宮ト云彦火ニ出見守
 レ祀リ兒之宮ト云鳥不食算ソ祈リ千守宮ト云國狛祖草
 社、リ一萬宮ト云學辟導草リ花、十萬宮ト云但ニ村合殿也
 法士煮乎ソ祀リ勸請言ト云大アニ道号シ祀リ飛行宮ト云
 面且首フ祀リ宋特宮ト云以上十二言、造リ皆十二階、上
 ハ大牀廻ニ金鋪翠幕錦緑珠簾、内、外陳又幕ソナレ内陳
 オウヲ神殿ト内陣、左、叶二宮ナカク皆宮殿アリ國常
 三尊ヲ建奉リト皆宮殿、内、唐櫃二ノ宮ナリト中、社言
 ツ社ム竹、天皇、神皇ミリ神秘、ナリタルト云ト譯ト
 ラ不矣、天武之皇以後、繪音等ハ別ニ御禁言、内、一室
 二枚ナリト社殿、有奉誦モナナレ、右十二言、神言、天

新言由来

或以前ヨリ、神祇ト同ル、由元末白裝丹等ノ日本書行
ニ勅シ過ノ經行固有馬料、並密ニ奉參シ事體ノ新言ニ鑿
仰替稱字ヲ元前序、後合宿シテ古氣石命ヲ祝言、ニ孝體
シ給ヒシ。神武天皇長體音ヲ追討、時天神也祇神ヲ
合祀シ給ヒテ後ニ宣勝利ヲ得云々故神也、未ヨリ祀リ云
々。神祠ニ下誠ニ算ヤア限リニナ、思ハム宏放ヲ壯麗ニ
造、統ハム重仁之室六十五年セ本室、元形ニ云、ハ
同レ世一御車也本宮ハ神武天皇後兵時行社トニ云々
地政ナリ新宮ハ元素吉朱リカツ、北条幕時、世ニ慈安殿
ヲ造立ト草木ナリ。依ニ世保、新宮ト唱、御靈レシハ
世々、昭今之面ニテ分明ナリ那翁山、祀リ云、ル。是
行天皇十一、又神武宣ハ三山、行幸アリ。与千院、十度

生前由来

行幸アリ其度無、詔令之神殿、内ニアリ寫、書跡ヲ吉井丈
膳ト云社家ニテ見レテク降タリ三公カタハ草坪ナレ丈納
言以下供奉、室人曾峯神トリ古雅、エノナリ奉船一ノ大
膳ニ詔書ニ日本経ト斧金石ニエ、殊、考情、心ナ生ヤ、
柴皮ニ宣假ニ御禮レテ帰ルヲ忘レ達、後瑞氣、影ニ阿
孫院嘗其像、一焉流ア拂タリ經ハ宋板ニテ余カ拂忍シテ
之出四處、十一而有ト全圖明氏曾王座ト丈方廣佛草
最縁ト阿學達度昌達所論トナリ宋板、古本音脚ニテ補有
一物ナリ況十一物經宋張校補ロタツハ誠ニ希也、號ナリ
神書、玄蕃、見レテク降、布テ後赤、集ノ序ニテニカミ
一向ニ全備セサケ由丈方廣佛レ、鑑禮。七月十五日伴楚謡
等ニ神馬ニテ祝言は供奉、係式ニテ供奉ニ十六昇御之孝

徐福家ト由

川、川上駒岡、傳達アリ九月十五日毎焚張子、被燒ニ
同様、供奉大祭川、『拂舟』游、神輿ノ幕セ因レ而、行
行丁々由其神馬白馬、平常ニ飼テリ神輿拂舟共、六日
ニ拂シタリ社家四十人皆吉奈下、神系ヲ傳、シテ子孫
、生満家内ト別又ナリ由其神石レ、直ニ大林也、上、
十年、レニ外障、入廿年、テ内障、祭祀ヤ替ヘ三十五年
ニ正位、吾ニ繁昌シトリ五十年、六始テ神發言
取ヒ入テ御歸スレハナリ神發言殿、殊、神邸、ニ跡候
シ中ニ掌故ヲ問、栗、劉羅ナ由大隱後レリヤレヨリ材堂
穴カ子肉跡ト云、有ラ葉内有ニシテ素、徐福カ家ト云者
、尋仁テ見セ、曰麻、内ニ一廟寺、ノ生塚、楠ニ株松十
餘株アリ門内、近外、舊穴、百レタリト聞、达命帰化、

人李梅深ヲ書、ニ秦徐福ニ臺ト云修造有前、ナキ抄事
鎮タリ碑キ碑シ建タノ傍、古塚トテジナ塚アリ此塚シ聲
タルニ、紫ソ清タリトニ土人宣レニ宣エ、一知レ易レ其向
ニ少キ閣、蓬草山ト云ハ徐福ミリ所会シタル也徐福力車
ヲ紀年鑑ニシテ色々々人言傳、シテトナリ殊、自所隠
、拂書目錄、モ徐福カ祀ト云フニ、アリ由大隱後レハ是
ニ一神ナリ徐福カ童男童女、子孫ミ多アリ由ナリ、經ニ
ナレ歌陽修ウ日本刀歌、徐福行蹟書未墳ト云ルモ能替ト
ハ云福ニ余徐福カ詮妄ソ思ニ、此地ニシテ、拂料、作テ
一室レテ巡格、ニ絶行詩數首奉リ乞フ有、幸トアリ、拂況テ磨レタ
レ、名喜テ酒肴菓子計銀シ賜り未、有アリ、拂況テ磨レタ
リ、遂格、寫出、拂燈在ト云リ、拂燈ト云セハカウニテ年代

ヲ三人祀カキテ私ノ家ニ付タニ移人百人、及フト云、
六日一日留連シテ新宮、横アラサヘ見物レタリ紀元、
鉢子役ナドリ東京一方石川カリノ屋敷社ニ見ニ大テ、門
外ニ鷺一羽餉アドリ逝クヨリ見ニ白居・鬼事ナツ大驚
ナリ無ヨリ飼吉ミト篠塚ナム由ヨン人ニ馴テ候カズシヒ
日暮ト夥シシ人・物ヲ折仰テ駕ノヤウナリ書ニヨリ人、聲
ハナシ禁ス俗ニ又拘・所為ト云供奉ナムト同叶・移室、
房・由干人許リ手・始又ヲ以ニ三脚鋸・終遂ヲ走リ上リ
玄廟ハ尚フ廻リ又走リ出ロ一審、下リタク有所呼歎也
トニ争ヒ下ケ甚矣・見易ナリ一人モ怪哉ナ・幸博ノリ身
六十二言御會セシ後、火災ニナシト古高寺甚多ト同シレ

金持様ニナキ二年食スル・似タレニ空ニ載セス七點ニ素
地ニ帰リニ角丸正門カ陽臺石門トニ石ソ鑿貫ナニ間門リ
建タク三回坐敷、挽居部、移リタリ庭ニ牧・梅名盛ナサ
レ道ノ徑ナリ料桟ハ幕ノ經リタリ翌日奉行・伴セシム府
太之ト云々者、露、板カケ紙者、言ニ鷺ノ餉ニシ寄ツ取
又寄帳ノ承ニ書ニ鷺ノ餉置寫ル一尺四寸・長ニ及ヒ
寫・小ナナ穴ツニ・脚ナ檻下・构ナ役丁笠・室ナ一箱
一・内鷺・數ニ三千三筆・余ナ由箱・數廿六百・鷺五六万
匹ニテノト見・タリ余才見シ些・ナニ・着氣ソ得ナ著
クナ時ナシ・一匹ニ見ニル未・出ゲ一等・蓋土・移熱
由也・鍋ニテ別・食場・用事ス・及・之・其名不ツ可掛
多・植ヘテ第一・不無安シテ寳・富・・・年・・著想ナ又少

レニ別房ソ造シ由一晩ノ内ニヒツ、立トツツハ「解アリテ
象釋アレニ従ヒ孔スルトナハ何カ、カ持テテ生ニ算シ篤
シ氣達ニ深ヒタマナリ他、特近市ノ開示、解説ニ行シ連
串シトセ人妻、仰タク後半事承トテハ「大昭ノ乾ノ内ト
リ音母國ナトニテ、珍リシテサ能御半「解説ノ意業ト
スク家多ケレヒ舞思ニ難ヤハ事ノ承道ニ故トニ左ミテル
一ノ此日ニ舞一頭シ複タリハレヨハ日之舞形ニ舞ア神、
出久座見合ヨリ觀空ニタケニ第一船、送、餘リチ跡キ故
真ノ忍ヘ、「是レシ又指ニ難思、ト舞ア舞事ニ當ラシ舟
・棄物シ方ハ得アレハ車ソ追フハカリヘテ頭、方、迎々
フフ張ヘ、ニ、舞ソメシ、フミ達ラナリ多クノ矣ヲ又真
ハ眞黙シ小集ハナリソ得ト見極タ、五三舞伐衆ノ章、テ下

知ソ為ハ其向半ヨリ逝シシニ莫ハ皆複ワ、レト思テ又言
神若ニテ製セリ身ニタケーン千百舞ソナ石ノ塵復ルヘン
ト思ヘリ水寧、解キハ舞ナド思ヒレ故ニ殊ニヒツ壹
首置タレハ水寧、トニ深キ人ニ接ヒ、吉酒齋折中ヲ等、
レト思、リ灌上、ア胸腔ソ於韓シ旅、祐エハシ得ハ今交
能ヘ得タリ只指、替リテ舞ヲ交ヒ是シノ想テシテ彼昇
カ真ナ丈ニレトテ後宮サンテノ思ニ所空ヤニ十二身丸
日ヨリ正月廿二日迄鶴九頭ソ難ネ、中ニ脊裏クジラト云
カ多、筋ニ唐ノノ珠、唐ニ珠ニテ、一頭ツ
皆タリ其身長ナ九尋、ノ足僅三百合、トシケ難ハ古頭古
頭ニシテニ本、兒舞ト云一種、舞セ坐頭、百合ヲリ以下
五十合ハナリ、舞多シ先篇ノ僅ニ三十合ヒタケ少エツ

、チシサレニ逃レタク算。ナ金町ナリシニ年ニモ残リ多
頭辛セ灵シ船、イカメレク旅ヲ吉ニ算。従ヒ進來ハ此草
ニ舟石ニ思ヒ、僕ニ兼セ入江、未リ余ノ舟ヲリミ達見
石、下、未リ游漁ス刃、ニタメテ見テ天晴金ナ百目カ五
十目、舟簡ナ携舟シラハ年、下ニ二頭告ニ獲フ、レト思
黙。魚ソ種ニ免物ニシルニ四張、遂見ニ算ヲツク旅ヲ立
見シ仰ニテ加勢一舟シサレ三輪晴ト云霧、舟ニ三般加
リテ船ニ網張場ト均、十本入レ網ニアニ全ニ張リテ双舟
一舟三頭告ニタクニ真ニ湾ナヘシテ浮説シ舡。未ル停リ
リ舟入江一里ニ止ラヌ真ニテハ常ニ輪ラ肩、肩血ア流レ
陸、又ハ肩ア熱ニ莫ニ度シヤ、ソレヲ浴ケテヲ知ラズ齧

恩、身ナシ事ト身ヲ蒸ト東シヤト性ニシ漸ニニ寄、如、
束リニ本告ニ寄、カ、カ、カシニ脚繩、行持、リシニ恐レ又
指共近附等ニ兵角ニシ内ニ二頭告、ニ空、網、空カニ廿
回、四十尋、空ラニ張ツ、オアリ沖、方、逃告、一頭船
上見、シテハ御傳リシハ不透サ行ク早ナーレカリ舟
五六艘コハシハ追掛ケ船情シニ近ヨリ船一本ヲ折クガ十
時ハカリ、ニ追核ニキ、入ラストテ帰リ又一頭ハ空ツ、
シシミ蹠レツク但家タク様、テ静ニ神、逃シニ牛四三艘
ニシ追カニキヨリ未正正午二百本ミ折タレセ恐ヒテ後ヨ
リ折クニ船ニ、中リ屋木ナラヌ於良弱ラズ船半、移シテ
船ニシテ蓋レテ折タニニ、ナリタク由、ニ二星程

又ヨト言ナガラ如何ニセ吉年號ヲシ未諒ナレタニ思ヒ
其後ト語ケル時ヨカラシ往還事後シ多詠シテ詩ヲ作り矣
ノ詠ハ一言ツ發セラレニ即ニツセ又其奥ニ頭、一人百金
アタシル事ナリト云ヘリ二頭、蒙リ古ノリ御モ百金錠、
入用にて仕立シキ御ナシ舞ミ五十金、及テ舞ツ接ツリル
百金、舞ツ得マベニ尚百ニフ全、暑ツ足ニ六七十人終
日、カシ秋月、アレシタノ治甚ト大歎「軍ソレーレト從
互新言ナリ行、之ト微尔シテ翌早朝、秦地ヲ韓別シ又ヨリ又新言、
出シ耳済レ事开大膳ト語リ玄水僧二人去老、済ヨリ菜果
クレア且日、新詩ヲ書レアシ、其前ニテ格調、ナシ歌ヒ
同セナドレテ從ニ玄水、僧ト一宿ツ共、シ明日有馬村テ
產田神社在ア五十里路七里行ニ至、亥ニイシケ先ウ亥田、社ヨリ持

亥

ヘレト有馬、池六ツ界集、酒水也大海ヨリ僅ニ一里、並
シ連、ツカ喜田、社、イタク此聲田、社ト云、ルハ 便契
丹井ノ木ノ柿子軒通穴智ッ花リネバ社セ三社、イタニ日
本乍、詳ナレハ言ニ照ニ社ニ大、シ千尋、古木第リイカ
ニヨ古翁ト思ハシ莫ヨリ、萬、十七八時ニテ、シ花
、窓の海ニ曉ニダケ丈高萬、シテ殊、利端ト是ハル萬十數
十丈、上ヨリ松林、梢、シライツアリ置ク年々花、時、
數吹歌集シテ紫ノ時ニケルシライナルガ期年、古代ニ
テ斯、アテニ由津カニメケテセ大敵、多シ金ナ待ツ別、余
名脇、壬子、亥ニ云五下、軒通穴智、葉リ中キメト云日
奉經、其ノ見エ不怪シ舞シ經アヌ、斧、亥ニ石茶敷、
カリナリ未滿ヨリ薄、テ行徳シ既、本本材、前ニ異聞

白鷺
縫カ
シライツアリ

牛、本材

唐書

内外二言

折六津、帆船ヲ見エバ由テ同、是タリ克、姑シ神宗ニテ
大邊地耕ト云陰祖申ニテ燒山ト云、殊、陰籍ナリ三日
行レテ伊勢國度今部、移リ達至大神宮ト云、ノリ猶、諸々
是、内言七ヶ所、別言ノ一、ナカ山社、内言ヨリ之大キ
ニテ古木多シ、湖、鷺鷗石ノ瀬、便ヲアセラ通リシ
ニ知テスレバ見ルテソ得テ内言ニイタクシ後未記、傍一
里ナル由ア同テ惣深スル、ミ雨空ノ巡洋レ磯辺ニ見サ外
ハ足鎧ツ携テ耳遊セシコトヲ思ヒシニ、辟レテ廻リテ其
一日雨空ヲ巡リ、四毛、城、冬時有無、ソシ詳ニセザリシ
故因凡、ニ燕ト郭外ヲ巡テ見ル、石垣堅ニ優然タケ城郭
也水聖三、入外聖、土居石垣ハアリニテ塙ハナレ量ハ城
ニアラサン、言記ニシケルモノカ本丸、櫓室ガカリテ

抄本

今、三重櫓ナシニ空一櫓ニテ、久能年改守、唐城
ナシ由江公ヨリモ興ラサ騎附レテ、其兵力百五十石ヨリ
二万石近、方ナシ由之能京、一万一千石ナシト同、抄本
ハ詞豆結構ナケル、ナシ、參言、從來語ヨリハ一向櫓ノ見工
サレ、是モ後序ノ方、廻、二萬ト見シケ、有也、上野、
ハ優メニテ篠城株、平城ニテ奇附、父及ヲ附、利多キコ
ト佛郭ナリ年、春公退院ヒシコツ一ノ月吉トテ本城、由
ハ新ツノ大庭見エビ松板ニテ和夢、名古ニ本居宿幕リ詔
シ、和歌山、社ニ相着ナリニ被多ミハレヨリ有也、之安
保、ニ被多、丁ヲサク上陣在、四方平セシニ田畠ニテ一
向ニ要害、設ツク名張、陸屋ヒテ丈ニ達ロクシニナク久

久安、津屋

居先候、馬革帳、思へ々上界、物、東都、上界山ニヨリ
宵々、拂、大抵、ツク拂也せ城、拂、ト、小セ城代、蘿室
床、セ、ツ、内院、諸隊長、六、萬番、少年、衆、石馬セ、
カ、由市人、拂、ツ、拂、一、廿四時、ト、ノ、無馬、ナリ、此日、拂、入、
雨、ツ、ツ、士、シテ、是、空室、二、行、ソド、思、二里、未、曉、未、
夜、行、サ、シニ、中刻、カ、ツ、空室、王、遂、松、リ、求、シ、宵相
客、多、キ、レ、ト、拂、ツ、拂、ツ、漸、向、在、所、シテ、サ、キ、雲助、前、如、
ナ、ツ、林、高、入、ツ、ル、叶、輪、中、ツ、後、熊、酒、帶、元、吉、景、鹿
ニ、壁、織、ナ、リ、シ、サ、レ、ニ、リ、空、置、山、シ、出、レ、ヨ、リ、又、カ、下、ニ、
陰、レ、家、ミ、ナ、レ、ト、六、ツ、拂、拂、リ、思、ヒ、出、レ、テ、果、子、今、日、音、彈、
獨、行、ニ、南、行、在、ツ、ヤ、カ、リ、シ、ル、ト、行、行、者、拂、リ、ケ、レ、イ、是、
ミ、シ、シ、處、ツ、一、睡、ツ、ナ、ン、曉、暮、食、シ、ツ、發、行、ニ、南、都、一、カ、ヘ、ヲ

大、朱、津、ヨ、リ、中、待、道、ヲ、過、キ、角、堂、ト、云、霧、ヨ、リ、川、舟、ニ、乘、リ、日、
暮、ニ、京、村、牛、所、一、上、リ、萬、兵、帰、リ、又、
冊、行、ニ、有、送、ツ、ル、事、多、ニ、南、洋、ア、達、ニ、テ、地、理、書、一、漢、リ、ナ、
ツ、ツ、知、ル、一、ツ、三、ツ、巡、拜、二、ツ、水、軍、利、害、得、失、詳、ニ、
三、ツ、輪、車、ト、蘇、觀、別、シ、觀、ツ、物、を、察、膳、鏡、フ、禱、ツ、四、ツ、便、道、
ニ、舟、旅、兩、宮、一、詣、メ、察、第、ヨ、リ、宿、過、之、遂、五、ツ、暁、持、百、六、尾、シ、
往、行、レ、ツ、向、游、勝、具、ヲ、餘、六、ツ、也、歸、來、家、書、ツ、得、ツ、平、安、
報、ツ、祥、ツ、不、覺、皆、熊、縣、有、夢、祥、物、看、福、ア、ラ、サ、ル、ト、ナ、レ、
ト、喜、レ、シ、ラ、幸、シ、ツ、一、夕、ニ、墨、詩、易、辞、セ、ト、ノ、歸、國、音、旧、
詣、公、ニ、被、レ、ト、備、セ、テ、覺、瑞、華、ニ、王、室、カ、過、其、ラ、告、シ、ノ、ニ、已、

正月二月一日

御書之山先さ、筆にて示ニ、錦里、子第、其道抄
告ニシ尙、設ト、國ヨ、署述、志有ニ甚哉名ノ名
トヲアテカ膳穿トニシ、原本「未」歎ナク矣ト見
ニシテ、四月廿日葛山武膳穿シ、島上紀流、碑文
一本也想ト、紀南也臺」葛山武、歎識スイ良カ

牛井有謹

跋

王山先生寛政丁巳六月高遠ヲ發レテ浪華、審タリ
戊午歲、丁巳、降ト、全、其前歲ニテ、過掌にて正、六
月帰郷、叶ニ老生す遂テ號有セラヤ六月二十日ハ當ニ
翌戊午、冬絶南、歷セテレテ終、其地ニ耕年セラレヌ
臂奉書ニ見、シリ冊幕一ツ、帰蕪ヤレテ翌年中、正月
十四日再び蓬ヲ發セラレ詠詠、新蒲眉ニヨ二月十八日詠
詩シ發レ何那、尋リ殿井、宿ヤソル十九日未明、山寺村
ニ至ニ父、草居シ仰十又吉蓬ヨリモ送別、為、兩三ノ末
リ是野蓬田中事ミ共、伊那詩ニシテ、奉、ケルカ又道
上稿、至テ技術レ云々大可通説中ニ止、余ト玉、スト於テ
其後僅ニ四年、レテ經、瓊浦ニシテ、詠セラレタ、今此紙行
シ聞ニテ、當時ヲ追憶トテ感傷ニ堪、又余之漫遊ヲ好

然レ所謂船情書ナシアレ、終ニ先生、船シ遂フ船
ハ不運甚少ナカラニ他書ニ封エテ益懶懶ニシ、ミ余丈常
ニ宿志、勝ニシテ能ハサルシ豪ニ好ヒテ諸國、地圖ヲ閱
シ航行、書ヲ讀ム院ヤ其書先生、車縛備ニシ、ヲヤ因ニ
一本ヲ有ニ耶一空ヲ後ニ志ス先生對書一外、又彦博日光

アリ

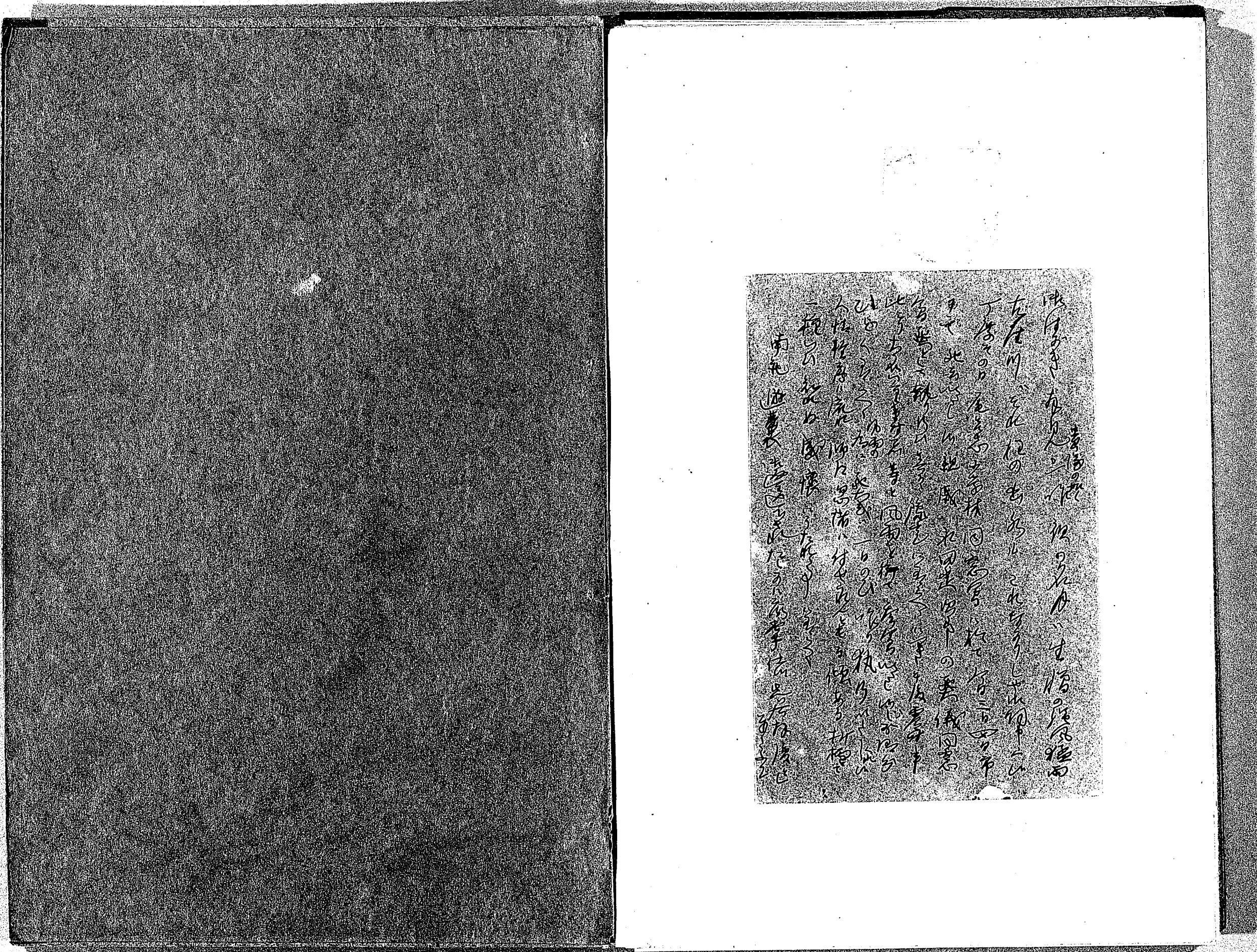
立段手ナ仲モ前四

中根文庫ナ東窓

此書ハ又山坂本俊吉先生、著ナリ昭和六年九月小野芳彦
先生ヨリ直寫本ナ示サシ通達スル、墨板大島、繫泊シテ
ルニト太地浦捕鯨、コトナト有リテ参考トニキ事シカ
ラス故ニ之の隣寫レシテ一片ヲ備ケコト、マリ又山先生
コトハ近古偉人傳ニ在リ

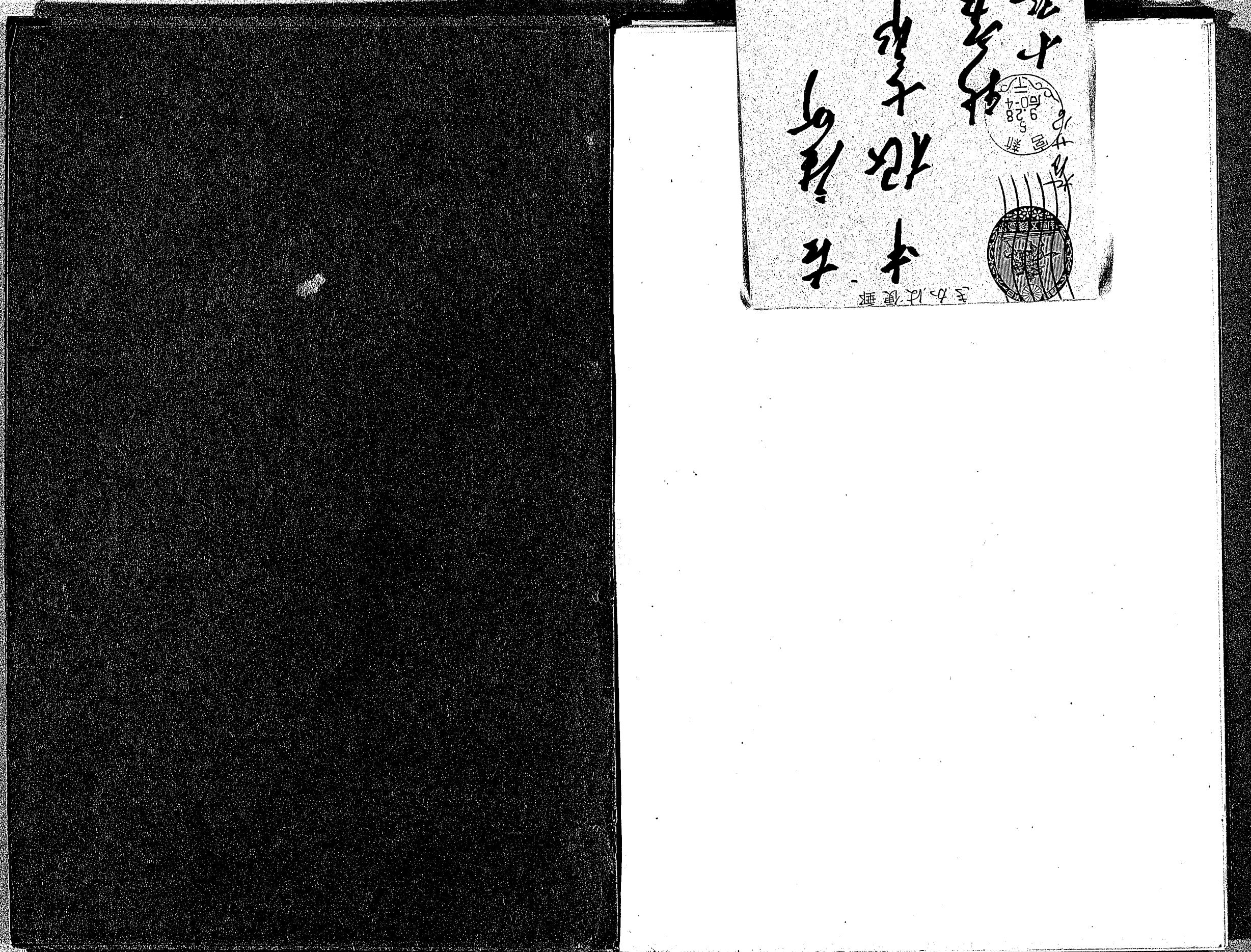
昭和六年九月廿二日秋氣滿月アレ左暗雲四亭云雨大
ニ至ル右晉州中澤古坐酒造株式会社陳酒場事務室、窓
不一於子

默菴中根士郎謹

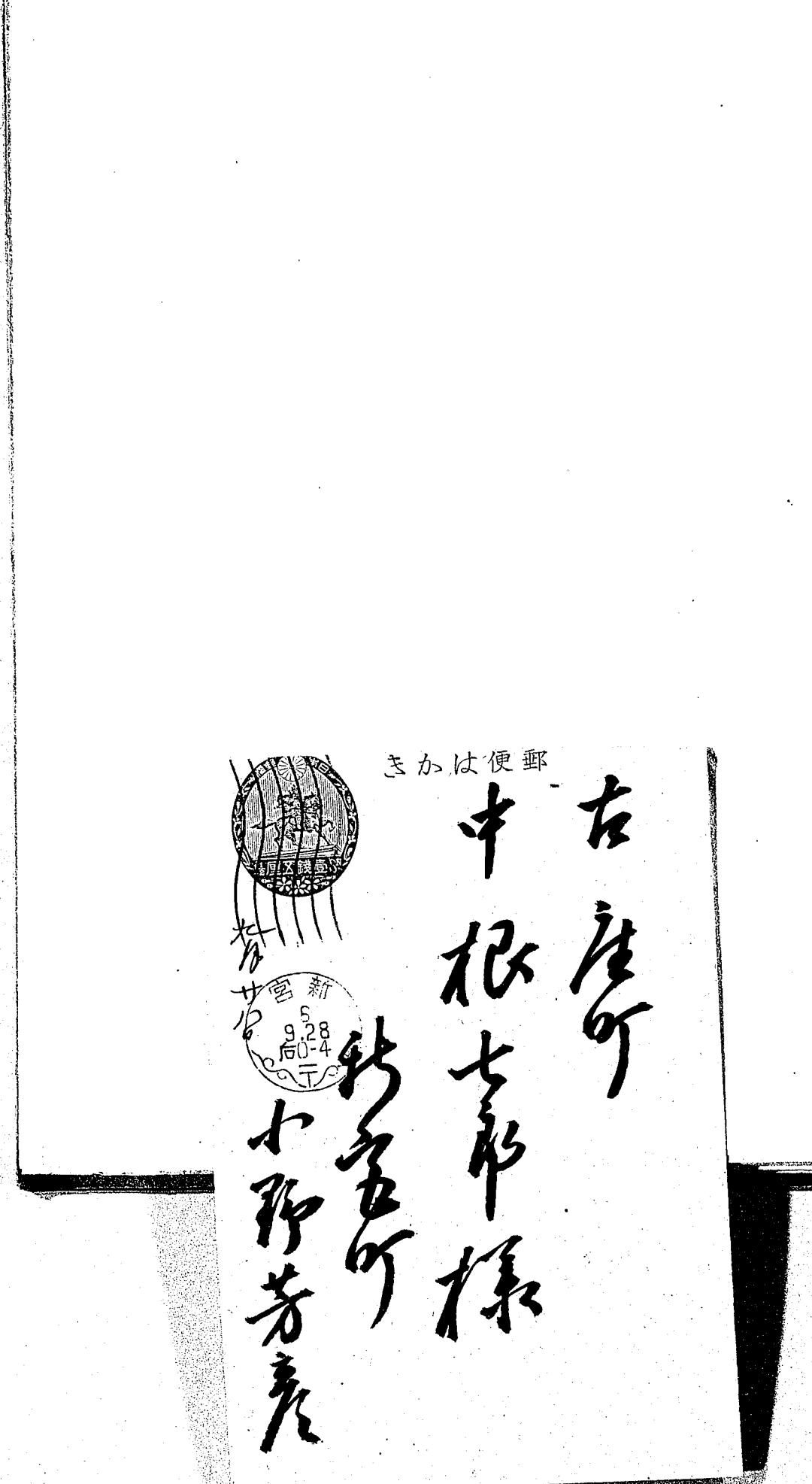


8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03979 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9

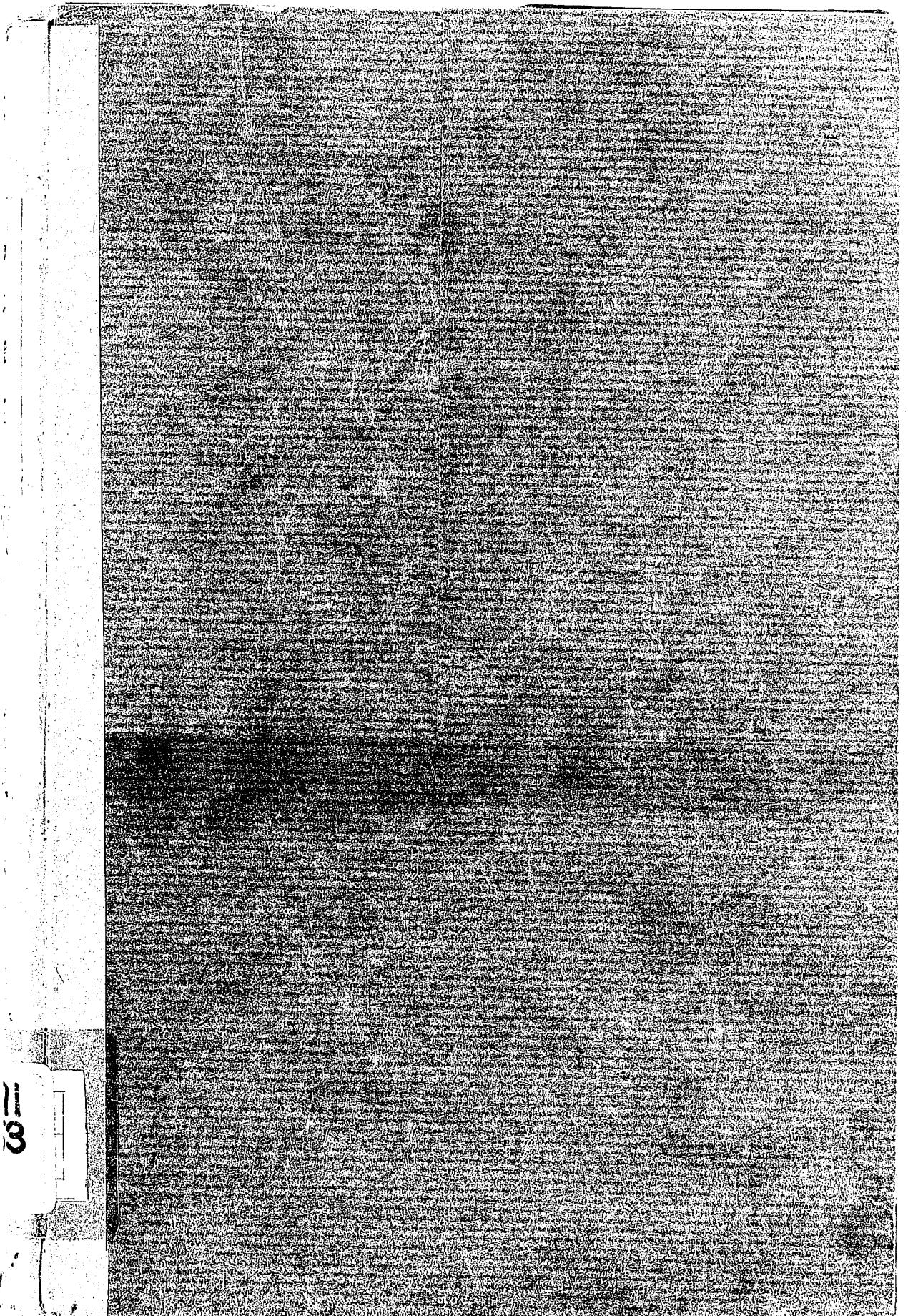
此身が如く見聞の所
左近川、三毛川の山あらこれにさし出御よし
アカミの山、尾高の山等林同窓會於て有言古事
事で此身以ては親戚社同業の委儀因意
曾幾と執り、是を後日、之に重慶事件
此身ちがう事無事、事と御、事と御、事と御
人情、事と御、事と御、事と御、事と御、事と御
二種の御懐、事と御、事と御、事と御、事と御
南紀、御、事と御、事と御、事と御、事と御



8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03979 | 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9



8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03979 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9



113